



シチリアのパレルモで
“Opera dei Pupi
(オペラ デイ プーピ)” の修業中

高橋 の り

私は今、パレルモでミンモ・クティッキオさんに弟子入りして、Opera dei pupiの修業をしています。

Opera dei pupi とは、シチリアの昔からある人形劇で、昔、テレビや映画のない時代の大人の男性達のみ観ることのできる娯楽でした。物語はPaladini(パラディーニ・フランスのカール大帝に仕えた12人の騎士達)が活躍するもので、日本の忠臣蔵のように敵討ちや暗殺、裏切りそして信義や戦い、愛や悲しみなどコミカルなシーンもあって、シチリア人達は感情移入しながら観ていたそうです。

1年かけての連続もので、昔は365話、毎晩つづきを行っていました。私は、初めは日本で“世界の車窓から”の5000回記念の番組と、NHKの特別番組“シチリアの心 プーピ”でミンモさんの工房、公演の一部(独特な声を震わせる台詞回しなど)、そしてマエストロ(師匠) ミンモ・クティッキオの人柄とマエストロの「私たちは、プーピ(人形達)、プーピは私たち。人間の人生そのものが人形劇のドラマだと思えます。そのドラマをどう作り上げるかはそれぞれ自分自身の精一杯の努力だと思えます」という言葉に感動して、シチリアへやって来ました。

初めて見た公演は本当に素晴らしくて、なんとと言ってもパラディーニ(騎士達)のカッコいい姿と言ったら、ライトに輝くよろいを身につけ、それぞれ違うデザインの盾を持って剣を振りかざし、敵のサラセン人をばったばたと倒してゆく、この戦いのシーンやピアノノ(手回しオルガン)の音色、ちょっとした仕草がまるで生きているようなプーピに、もう、かなり魅入ってしまい、去年の4月からマエストロ・クティッキオに、プーピを操りたいばかりに弟子入りして毎日工房へ通っています。

工房では、毎日きりないほどやる事がいっぱいです。マエストロは忙しく工房へは毎日来れませんが、工房には先輩のターニア(ミンモさんの右腕的存在)がいて、公演で使ったプーピの修理から新しい衣装の考案・製作、そして公演のシーンの背景画を描いたり、公演の前には公演の演目に合わせプーピとシーン、小道具など全ての準備をし、劇場の管理(修理や掃除など)もやっています。そして毎年やっているLa macchina dei sogni(ラ マッキナ デイ ソンニ)という大きなプロジェクトの何ヶ月か前には、その準備に取り掛かっています。私は、ターニアの補佐と劇場の前の掃除、そしてプーピの木の部分が虫に食われていたら防虫剤を塗ったり、衣装を縫ったり、公演の準備の手伝いなどいろいろやっています。

公演は基本的には、土・日、テアトロマッシモの向かいのVia Bara all Olivella 95で18:30からですが、年間通して旅

公演が多いので、旅公演のスケジュールが入ると旅公演に合わせて準備にかかります。

出発前には、ワゴン車に組み立て式の小劇場とプーピ、そしてピアノノや照明など積み込む作業もあります。旅公演にはいつも、プーパリー(人形師達)としてマエストロはもちろん、マエストロの息子のジャコモ、姪っ子のティツィアーナ、そしてターニアと私、照明のマルチェッロもいきます。



ミンモ・クティッキオ師

日本の歌舞伎の世界などと同じで親から子へ代々受け継がれてゆく習慣が根強いので今もマエストロのファミリーが受け継いでいます。でもマエストロは、世界へ公演に行っているせいか大きな心を持っていて、日本人である私にも「ここは、世界に扉を開いているんだよ」と弟子入りを許可してくれました。威厳があって、物凄い存在感があってユーモアもあるマエストロは、若い頃、il cunto(イル クント)“シチリアの伝統的な一人語り”を勉強したせいか、普通のプーピのプーパリーとは違って、舞台そでで演じながら操るだけじゃなく、観客の前に出て演じながら操ったりする公演もやっています。もちろん、クンティスト(クントの語り手。今では、世界中でたった一人、唯一のクンティストとなってしまいました。)として、クントの旅公演にもよく行っています。

マエストロはいつも「公演は生きている」と言っていますが、その通りマエストロの公演は同じ演目でも毎回違って同じ事をコピーするという事はありません。なので毎回新鮮に演じているのですが、台詞も変わるしプーピ達の登場も変わってくるので、みんな常にマエストロを見てマエストロのサインを見逃さないようにと真剣勝負です。プーピは全部で600体位あります。古いものでは、1800年代終わり頃に作られたものもあります。それらは今でも公演に使われています。プーピは、マリオネットと違って、操るために握るハンドル部分を円柱形にした事によって、さらに人間に近い動きができるようになったといわれています。360°すぐに向く事が自由からです。

今、また旅公演でヴェネツィアへ行っていますが、日本へ公演に行く時には、ぜひ皆さんに見せてあげたい。ぜひ一度観に来てみてください、この素晴らしさをみなさんにもわけてあげたいと思っています。

いつの日か、楽しみに待っていてください。

高橋のり：青森生まれ東京育ち、高校卒業後俳優を目指し、いくつかの舞台にも出演しましたが、進路変更。フラワーアレンジメント業の後、イタリアに遅咲きの留学。シチリア伝統のOpera dei pupi と出会い修業の道へ。